

古代・中世の地域社会

—「ムラの戸籍簿」の可能性—

大山喬平 (京都大学名誉教授)・三枝暁子 (東京大学准教授) 編 2018年9月刊行

▶ A5判・544頁／定価:本体 9,000円 (税別) ISBN978-4-7842-1946-9

古来より人びとの生活の基盤であった郷・村(ムラ)は、いつ生まれ、近世村にどのように接続するのか、あるいは消滅するのか。本書では、それらを記録する資料を集計した「郷村表」を作成し、人間の戸籍にたとえて「ムラの戸籍簿」と呼ぶこととした。「ムラの戸籍簿」を用いることで、どのような論点が浮かび上がってくるのか。

政治史や社会経済史、宗教史、都市史などさまざまな専門分野を持つ研究者20名が、日本全国のムラの成立過程や、「戸籍簿」作成の過程で見出した地域社会・個別のムラの特色について分析の深化を試みた。

「ムラの戸籍簿」研究会、10年間におよぶ活動の集大成。村落史研究の新たな地平を拓く。

●内容目次●

刊行にあたって
序章

[研究会事務局]

I 地域社会の構造と支配秩序

伊予国の郷と村	[山内譲]
古代越後国古志郡内の「村」とその後 —近年出土の木簡史料から	[小林昌二]
伊賀国名張郡の村 —平安期の村とその展開	[鎌倉佐保]
中世紀ノ川流域における「村」の出現と変遷 —高野山領官省符荘の場合	[木村茂光]
畿島社領安芸国久嶋郷の刀禰とムラ	[村上絢一]
紀伊国の郷一名草郡日前宮領を中心に	[川端泰幸]
中近世における下野国の郡域変動	[花田卓司]
武蔵國中村氏の神領支配と西遷	[三枝暁子]
備作地域における「名」	[吉永隆記]

II 神仏とムラをとりまく環境

近江國中世史料に見る「村人」の存在形態 —「村人」はどこで何をしていたか	[谷昇]
筑後国の郷村 —大善寺玉垂宮関係文書から	[門井慶介]
中世三河の寺社境内と村落	[服部光真]
伊勢国の八王子社と村 —二つの神事頭番帳から	[伊藤哲平]
神社膝下の「ムラ」とその歴史的展開 —周防国松崎社及び十月会との関係を中心に	[松井直人]
経塚・造仏・写経と民衆仏教	[上川通夫]
浦から見た中世の地域社会	[春田直紀]
村の生業と呪力—上野国赤城山南麓の村	[山本隆志]
和名抄郷の持続性と自然頭首工	[海老澤衷]
あとがきにかえて—往時茫々 「ムラの戸籍簿」と 『東大寺領美濃国大井荘』のこと	[大山喬平]
索引/執筆者紹介	

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-533-6860 fax.075-531-0009
https://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票

発行:思文閣出版

(京都 取引コード 3402)

冊数	冊	古代・中世の地域社会「ムラの戸籍簿」の可能性 本体9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1946-9	
お名前		tel	
		e-mail	
ご住所	〒		
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代 引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)		

本書HPのQRコード

書店番線印